



カモシカ



ホンドキツネ



ヤマネ



オコジョ



ニホンザル



ムササビ



イヌワシ



アサギマダラ



エゾハルゼミ



ツキノワグマ



ホンドテン



アナグマ



ニホンリス



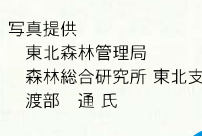
ニホンウサギ



ニッコウイワナ



クマタカ



写真提供
東北森林管理局
森林総合研究所 東北支局
渡部 通氏

五十嵐家住宅 (イガラシケジュウタク)

実川地区最上流にある、国指定重要文化財（歴史的建造物）です。近世木造建築における豪雪地農家の特徴を備えた古民家として貴重な建造物であり、厳冬期は3メートルを超す豪雪にも耐えて、建設当時の姿を残しています。この住宅が建てられた宝暦9年（1759年）以前から、五十嵐家は村の最重要な地位にあって、配流された高貴な武士や文人墨客が多く滞在した事実があります。これら貴人や文化人から直接指導伝授された実川の冠婚葬祭儀礼は、会津武家の伝統的形式を他の会津地方のどこよりも最後まで残していたとされ、戦前までは会津の人々が「（冠婚葬祭の）正しいやり方は実川の人に聞け」と言ったほどです。

実川地区 (サネガワチク)

建久年間（1190～1196）の頃に開拓されたと伝えられる最奥地の村で、江戸時代には会津藩の配流地（身分のある罪人が流される場所）になっていました。人々の暮らしは天然材を伐採して川に流し、建築用材や薪材などの良材を産出した林業のほか、主に狩猟採取と僅かな農地に依存して生活していました。明治から大正にかけては、阿賀野鹿瀬地区にあった草倉銅山において使用する燃料薪や木炭を産出していましたが、電源開発が始まると、住民は発電所の建設工事や維持作業に従事することで生計を支えるようになり、昭和初期には200人以上（戸数40戸）にまで人口が増えましたが、発電所の無人化に伴って減少し今は廃村になっています。

実川森林公園 (サネガワシンリンコウエン)

JR日出国駅から国道459号を福島方面に進み、当麻トンネルを出たところで左折すると町道実川線に入ります。町道の舗装路を9kmほど上流に進むと今は廃村となった旧実川地区があり、その一部が実川森林公園として整備されています。

飯豊連峰
実川登山口



アシ沢の流れ



ゲンコツグナ



実川渓谷の紅葉

林道ゲート



グナ林と湯ノ島小屋



実川に架かる前川吊橋



万治峠付近の東小屋



万治峠の大グナ



実川渓谷
森林公園

前川吊橋



オノオレカンバ



万治峠道

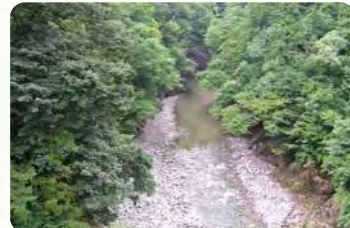
猿丸太夫伝説 (サルマルダウデンセツ)

三十六歌仙の一人に猿丸太夫という人がいますが、栃木の日光山にまつわる神々のことを記した「日光山縁起」によると、「小野という地に住んでいた弓の名手、小野猿丸こと猿丸太夫は朝日長君の孫で、日光権現と赤城神が神域を争った時、この猿丸太夫の加勢により日光権現が勝利した」という話があり、実川最大の支流である裏川には、猿丸太夫が住んでいたとされる「小野ヶ原」という地名があります。また「鹿瀬(かのせ)」という地名についても「ある日、鹿を追いかけていた猿丸太夫が阿賀野川に鹿を追いつめたところ、鹿は広い川面を跳び渡って逃げてしまった。不思議に思った太夫が近づいてみると、深い川のその部分だけが浅瀬になっていたの、その地を鹿瀬と名付けた。」という伝承があります。「奥山に もみぢ踏みかけ 鳴く鹿の こゑきく時ぞ 秋はかなしき」百人一首に選ばれたこの歌は、猿丸太夫が故郷を思って詠んだものと伝えられています。



新緑の実川渓谷

至R459号まで約8km



盛夏の実川渓谷

万治峠 (マンジトウゲ)

実川地区は配流地として古くから会津藩との直接交流があり、現在の福島県西会津町実川から、急峻な山岳地には果敢な、馬も通れる立派な道が通じていました。この古道において、一級河川馬取川と実川との分水嶺となる位置にあるのが万治峠（標高約670m）です。地名の由来は万治元年（1658年）に開設されたからと伝えられており、峠には河童を題材とした画で有名な水墨画家の小川芋銭（1868-1938）が、実川に滞在した折の歓待厚遇に感謝し、帰路に惜別の情を詠んだと伝えられる「忘るなよ 万治峠の ホトトギス」の句碑があります。

飯豊連峰大日岳 (イデレンポウダイニチダケ)

飯豊連峰は磐梯朝日国立公園の中にあって、新潟～山形～福島の三県にまたがる大きな山域です。世界でも有数の豪雪地帯であり、頻発する雪崩や膨大な雪解け水に深く谷を削られた険しい山容は「朝日は遠く、飯豊は深い」と形容されるほどです。最高峰の大日岳（2128m）は、例年晩秋から初夏まで雪を抱き、その神々しく美しい姿は、新潟平野や日本海からもくっきりと望まれる雄大なランドマークとなっています。阿賀野からの登山ルートは実川沿いの林道を経由し、アシ沢を渡って登山道に入り、櫛ヶ峰（1866m）～牛首山（1890m）の稜線をたどって大日岳（2128m）に直登する「オンヤ松尾根ルート（実川登山口）」があります。

実川 (サネガワ)

飯豊の主稜に水源を発する前川と裏川を併せ、豊かなグナ林を縫って阿賀野川に流れ出す一級河川です。花崗岩の大地を深く侵食した渓谷は「東北で最も険しい谷」として知られますが、春から晩秋まで四季折々の多彩な景色が楽しめ、特にグナの新緑と紅葉時期は「渓谷美の極地」と言うに相応しい風景です。実川では大正十年から電源開発が始まって、現在は4箇所の水力発電所と5箇所の取水ダムが運用され、東北電力管内でも重要なクリーンエネルギーの源となっています。

阿賀野川